

六甲カトリック教会 教会報



評議会報告（コロナ後初）

今年度初めての小教区評議会が7月12日（日）開かれました。この日の会議は「コロナ」のため凍結されていたミサや教会行事を、今後実施するのか中止・延期するのか、を中心の議題とし、評議会メンバーと司祭団とで協議しました。「コロナ」は今年度中は終息しないであろうとの前提で以下のように決まりました。

今年度8月以降の教会行事について

- ・平和旬間行事【8月8日（土）～15日（土）】「平和旬間のための祈り」冊子を作成、期間中のミサで配布。一斉メールでも配布し各家庭でも活用できるようにする。
- ・聖母被昇天ミサ【8月15日（土）】 7:00 10:00 予定通りミサあり
- ・納涼の夕べ【8月15日（土）】 中止
- ・宣教部講演会【9月12日（土）】 録画のWEB配信予定 一斉メールでURLを送る 講演者はピスカルド・松浦篤子さんの予定
- ・典礼奉仕者の集い【9月13日（日）】 中止
- ・三日月会総会【9月14日（月）】 中止
- ・社会活動部学習会【9月20日（日）】 中止
- ・壮年会婦人会合同遠足【10月24日（土）】 中止
- ・祈りと音楽の集い【11月1日（日）】 教会信徒のオルガン演奏で実施 完全予約制 懇親会なし
- ・チャリティーバザー【11月8日（日）】 中止
- ・七五三祝福式【11月15日（日）】 10:00ミサ中 該当者家族優先
- ・クリスマス音楽の集い【12月20日（日）】 中止
- ・クリスマスミサ【12月24日（木）】 時間・回数など検討中
- ・クリスマスミサ【12月25日（金）】 7:00 10:00
- ・新成人祝福式【1月10日（日）】 10:00ミサ中 教会新年会は中止

勉強会その他の会合について

- ・社会活動部「ともしび会」・・・ケーキは各家庭で焼き、会議室で飾り付け後配る
「炊き出し」・・・中央教会活動センターにて調理、メニュー簡素化して実施
- ・イグナチオ喫茶・・・無期限延期
- ・手芸の会 ・朗読の会 ・AA・・・場所を広くとって継続可
- ・カトリック入門 ・養成講座 ・聖書研究会・・・少しずつ再開

その他報告事項

- ・教会学校：9月から再開 キャンプは中止
- ・施設管理部：5月に聖堂屋上の防水補強実施済み 空調吹き出し口を祭壇後ろにも設置して効率を良くした。 聖堂モニターについては工程が遅れているが進行中
- ・社会活動部(シナピス関連)：中央教会でのクリスマスチャリティーコンサート 静修会 黙想会はすべて中止
- ・広報部：イエズス会4教会 WEB 会議は休止中、合同巡礼は中止
- ・地区会： 次回役員会は10月18日(日)を予定 zoom 会議も検討
- ・アルフレド主任司祭より： 3階のロヨラルームは改装工事完了 神学生1人と神父が使用 ゲストルームあり

次回は10月11日(日) Zoom 会議も検討

主日ミサのスケジュール

月	日	曜日	時間	地区(ブロック)
8	1	土	18時	どなたでも
8	2	日	7時30分	どなたでも
8	2	日	10時	第1グループ
8	8	土	18時	どなたでも
8	9	日	7時30分	どなたでも
8	9	日	10時	第2グループ
8	15	土	18時	どなたでも
8	16	日	7時30分	どなたでも
8	16	日	10時	第1グループ
8	22	土	18時	どなたでも
8	23	日	7時30分	どなたでも
8	23	日	10時	第2グループ
8	29	土	18時	どなたでも
8	30	日	7時30分	どなたでも
8	30	日	10時	第1グループ

第1グループ……灘北 北 三田 灘北2 阪神 灘南 神戸西
 第2グループ……灘西 中央 東灘北1 東灘北2 芦屋 東灘南

✠ 洗 礼 式

コロナのため延び延びになっていた洗礼式が、7月11日(土)の夕ミサで行われました。ソーシャルディスタンスを考慮してのミサ、志願式も省略、お祝いのパーティーもない簡素な式でしたが、アルフレド主任司祭のもとで静かに



そして祈りのこもった荘厳な雰囲気の中、式は行われ、会衆のあたたかい拍手に包まれました。受洗者は3名、市川和友さん(洗礼名ヨセフ)、高山清さん(洗礼名アウグスティヌス)、内海幸子さん(洗礼名カタリナ ラブレ)です。



みんなの広場

パン種に思う

緊急事態宣言が解除されても、それ以前から何となくコロナ自粛が続き、早くも半年。近くのスーパーに出かけるのさえも控えているうちに食べるものがなくなってきた。で、何かないかなと戸棚を探っていると、3カ月前に賞味期限が切れた強力粉と、すでに1年前…というイーストがあるではないか。いつか使おうと思っていた、ということ思い出した。ステイホームで何かに挑戦してみるのに最適なテーマに思える「パン作り」。これはぜひ使って“実験”してみなくてはと、粉の袋の裏面に書いてある説明に従って材料を合わせて捏ねた。熱心に捏ねてから生地を休ませ、時間が経つとイーストのおかげでぷーっと、それなりに膨らんでくる。なんだか夢あふれる食卓になるのを想像しながら焼きあがるのを待った。

初めてのパン作りはこんなにいい加減だったけれど、これが意外においしくて、2回、3回と重ねて焼くうちにコツもわかってきた。少ない経験ながらも、牛乳など材料の分量を厳密にするとところがポイントだと知る。3回焼いたところでイーストが切れてしまったので、今度こそまじめな新しいので！と勢い込んだ。しかし、スーパーを6軒回るも、どこも品切れ。みんな家でパンを作るようになったのだと知った。

出エジプト記に種なしパンの話がある。酵母(イースト)を含まないパンのことで、追手から逃れようと先を急ぐイスラエルの民がその時、パンの発酵を待つ時間もないほど逼迫した状況にあったからとの説明が付く。

第二波の懸念が高まる今、こちらも種なしパンでいいか、と思う。《ベルナデッタ O.》



園芸だより

各地に豪雨の被害を出した長い雨期でした。雨によって蔓延った苗の手入れ、害虫の退治も欠かすことが出来ません。幸いなことに夏の花壇はダメージも受けずたくましく育ってくれています。猛暑に負けない色合わせは皆様を元気付けてくれることでしょう。8月の動物情報は7月の庭の手入れの時にイタチが私達の前を駆け抜けて行くのに遭遇し驚きました。

花壇のお花に「名札を付けて欲しい」とのご要望を聞くことがあります。札を立てるのは難しいのです。園芸植物は、私達の生活に合わせて改良されています。園芸ブームと共にベランダや小さなお庭で楽しめるように多種の可愛いお花を見かける様になり、店頭に並んだポットを見ると、植物と関係のない名前や、ハイブリッドの長いカタカナの覚えられないような名前が付けられています。花壇の中に同種属の植物が植わっていますので、探してみる楽しみも味わってみてください。先輩



達が携わってこられ、聖書の中に登場する植物、遠い昔から日本人が愛おしんできた木や球根植物等を植栽されてお庭を作られてきました。

梅雨には元池には葉っぱや泥が水はけの邪魔をして本来の池のように水が溜まる事があります。スムーズに排水するよう心がけたお掃除、教会の外周りを常に清掃、早朝から草を抜き、木々の剪定をしてくださる方々のおかげで、どのような時にも美しい教会のお庭が保たれています。道を行きながらマリア様のミニ花壇を楽しんで下さる方、お散歩に花壇を訪ねてくださる方、藤棚の下でくつろいで下さる方もあります。今の厳しい時期だからこそ、気軽に訪問くださる一般の方々をお迎えできる事を願いながらお手入れを続けていきます。夏の水撒きの当番表を受付に置いていますので、ご協力よろしくお願い致します。

《 施設管理部 園芸係 貴島せい子 》



「イミタチオ・クリスティ」キリストにならいて

トマス・ア・ケンピス著 講談社学術文庫

15世紀にドイツの修道士が著した本書は、聖書に次いで多くの読者を獲得したと言われています。それは、平易な文章、章節が短くて読みやすいこと、そしてその中に深い慰めがあるからです。本書は1から4巻にまたがり、各巻にはいくつかの章に分かれています。どのページからでも読み始めることができ、現代の私達にも心の安らぎや謙虚さへの気づきを与えてくれます。

第1巻、第10章、「言葉の多すぎるのを避けるべきこと」
人の集まり騒ぐ所をできるだけ避けること。何度、黙っていればよかったとか、人前に出なければよかったとか思うことがある。互いの会話で慰めあい、自分達の気にいらぬことの話を楽しむのだ。それは、外面的な慰めに過ぎない。だが、精神的事柄についての敬虔な会話は精神の向上に寄与する。(要約)

これは、まさしく私のこと。幾度となく喋り過ぎたことを後悔し、特に酒席での失言は本音だけに翌日の気分の落ち込みはどん底です。その場を会話で盛り上げようとするのは心の弱い部分の現れかなと思います。お笑いタレントの方も実は、心の弱い部分を笑いに代えていらっしやるのではないかと憶測したりします。現代の人の集まり騒ぐところはインターネット上にもあると捉えれば、溢れる多種多様な情報をそのまま取り入れたり、深い考えなしに発信して時間を費やすのも気を付けたいものです。《陽》



今月の聖人—8月

8月15日はマリア被昇天の祝日です。受胎告知のときと同じように天使ガブリエルがある日来临し、マリアにその死期が近いことを告げます。世界に散らばっていた使徒たちが呼び寄せられ、彼らの見守るなか、イエスの迎えによってマリアの魂は天に上って行きました。

イエスは自ら昇天しましたが、マリアはイエスの導きによって天に上ったので「被昇天」と呼びます。臨終に間に合わなかった使徒トマスの求めに応じて墓を開けると、マリアのからだ

はすでに消え失せ、魂だけでなく肉体も天に上ったと、使徒たちは確信しました。無原罪のマリアなので一切肉体は昇華し去ったのです。

八木谷涼子著

「キリスト教歳時記」平凡社より



《お知らせ》

カトリック福岡司教区から九州災害における寄付の依頼がありました。六甲教会として30万円をお送りしました。

何時からだったのか、足元が覚束なくなり忘れっぽくなったのは。いっこうに降り止まない梅雨空を見上げながら、思案している。この間、イエズス会の年長者リストを見ていて驚いた。最年長は99歳のブラザーマルコさん、最年少は23歳の神学生チマンジャさん。しかし何と81歳の私は、179人中の62番目に堂々とノミネートされているではないか。知らない間に、誰に断って、為すこともなく等々、多くの想いが湧き起こり、ただただ呆れてウロタエルばかり。まだ何かやり残したことがあるのか、人生に多くの未練があるのか。有るようで無いのか、無いようで有るのか、何だか落ち着かない。そういえば確かに、周りには自他ともに老いを抱えた人々が意外に多いのに気づく。

旧約では、歳を重ねる人生の旅路の果てに死後の賞罰・天国や地獄よりもむしろ、生命あるものの定め・道と考え死を当然視する。その意味でヨブは「私は裸で母の胎を出た。また裸で還ろう。主は与え、主が取られた。主の御名は賛美されますように」と堂々と祈っている。つまり生まれたての嬰兒の無力さ、すべてを母に頼るしかない非力さは、人生の終局に再び訪れ、嫌でも誰かに全く依存し介護される定め・道を踏まえて、むしろ神を勇ましく賛美するヨスガとしている。このような死生観は新約に至って劇的な変化を遂げ、イエス自らが苦と死を経て復活へ過ぎ越したように、イエスを信じ彼の道行きに従う人々もまた神の恵みによって、新たな永遠の生命に与る希望を戴くのである。

うたい文句や表看板はこれぐらいにして、

◆少年老い易く、学なり難し◆

むしろ老いることの内実・現れ方を、自分の体験を通してまとめてみようか。何だかめっきり足の指先に力が入らず、けつまずく事が増えた、自分では脚を上げているつもりなのだが。手先に問題があるのか、テーブルから食器や箸を掻き落とすことが増えた。腰を屈めることが不自由なのに、落とすものを探したり拾ったり容れ直したりが多くなったものだ。相手の名前を尋ねるのが怖くなった、どうせ直ぐに忘れてしまうのを氣遣って。ど忘れ、勘違い、思い込み、物忘れが自慢じゃないが急に増えた。しかし有難いことに、駄目だしばかりではない。今までには考えられない、成熟も聞き分けも忍耐もアキラメも増し加わったのではないか。俺様が是が非でもやらなければ、農が万難を排しても頑張らなければ、というシャチコバツタ悲壯感は余り無い。人間がやること為すことは何であれ〔権力争い、金もうけ、学問の研鑽、芸術、著作〕いずれも多寡がしれたもの、ほんの数十年間もて囃されてもそれで終わり、何と儂くも過ぎ去りタワイナイものなのか。平家物語の序段が身近に偲ばれてならない。

教会は何百年にわたって終課〔一日の働きや営みを終えて眠りにつく直前の祈り〕として、ルカ福音書2章29-32節に記されたシメオンの賛歌を唱えてきた。主よ、今こそ、あなたは御言葉のとおり、この僕を安らかに去らしてください。私の眼があなたの救いを見たのですから。この救いはあなたが万民の前にお備えになったもの、異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの栄光です。感謝のうちに、信頼のうちに日毎、唱えようではないか。中村健三 合掌

【 2020 年 8 月予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
年間第18主日				主の変容	聖体顕示 初金曜日ミサ 7:00 10:00 ◎東灘北1	
9	10	11	12	13	14	15
年間第19主日	教会受付休み				◎灘西・中央	聖母の被昇天ミサ 7:00 10:00
16	17	18	19	20	21	22
年間第20主日					◎灘南・神戸西	
23	24	25	26	27	28	29
年間第21主日					◎東灘南	
30	31					
年間第22主日						

◎は掃除当番地区です。ミサ再開の地区割ではありません。

原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご 持参いただくか、FAX やメールでお願いいたしま す。皆様からの原稿をおまちしております。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp	六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 Email Address renraku@rokko-catholic.jp 編 集 広 報 部 発行責任者 アルフレド・セゴビア
---	---